オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(98)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(98)－

１．始めに

前報(97)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は協奏曲です。

Deutsche Shallplatten ET-005

モーツアルト　フルートとハープのための協奏曲ハ長調

「偽の女庭師」序曲

「イドメネオ」序曲

「後宮からの誘拐」序曲

「劇場支配人」序曲

「フィガロの結婚」序曲

ヨハネス・ヴァルター（フルート）

ユッタ・ツォフ（ハープ）

オットマール・ズイトナー指揮シュタータツカペーレ・ドレスデン

オットマール・ズイトナー指揮シュタータツカペーレ・ベルリン

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Deutsche Shallplatten 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきました。

フルートとハープのための協奏曲ハ長調は、ヴァルターのフルートもツォフのハープも明るく切れの良い演奏で、ズイトナー指揮シュタータツカペーレ・ドレスデンもオペラ劇場のオーケストラらしく、明るく爽やかにバックを務めています。この曲はランパルとラスキーヌのコンビの演奏が定番ですが、ヴァルターもツォフもそれに劣らず、良い演奏をしていると思います。

「偽の女庭師」序曲は、ズイトナー指揮は変りませんが、演奏はシュタータツカペーレ・ベルリンに代わっており、明るい表情で恐らくはコミカルなオペラの序曲に相応しいのではないかと思われます。
「イドメネオ」序曲は、ややドラマティックな表情のところもある曲です。
「後宮からの誘拐」序曲と「劇場支配人」序曲は、いずれもオペラの序曲らしいわくわく感をいだかせる曲で、「フィガロの結婚」序曲もおなじみの曲で同様です。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上/